

水田信利 のぶとし 外交官。明治二十二年鳥取生れ（一八九一）。岡山縣立商業學校卒。外務省留學生としてオランダに赴く。日本公使館通譯官を経て領事、總領事となり、昭和三十一年退官。大正十四年二度目の渡蘭の折、同地で日本關係書籍、古文書を涉漁、その詩史料を編纂して『幕末に於ける我海軍と和蘭』（昭和四年九月十二日有終會）と、水田稻葉の名が著者した。更に該書後半の中心人物となり、幕府海軍傳習所オランダ教育班の第二次班長フアン・カッテンディーケの『滯白日記抄』と『搖籃時代の日本海軍』（昭和十八年四月二十日海軍有終會）と題して譯刊（のうち改題『長崎海軍伝習所の日々』昭和二十九年九月十日平凡社『東洋文庫』、普及版・四十九年二月十八日平凡社）。

